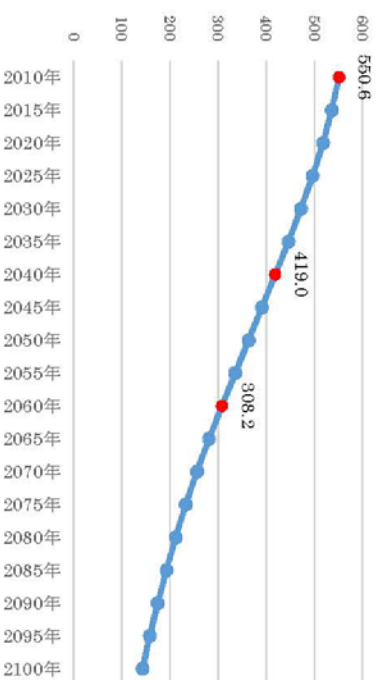


将来人口の推計と減少による影響分析

1 将来人口の推計

(万人) 総人口推計 (国による推計)

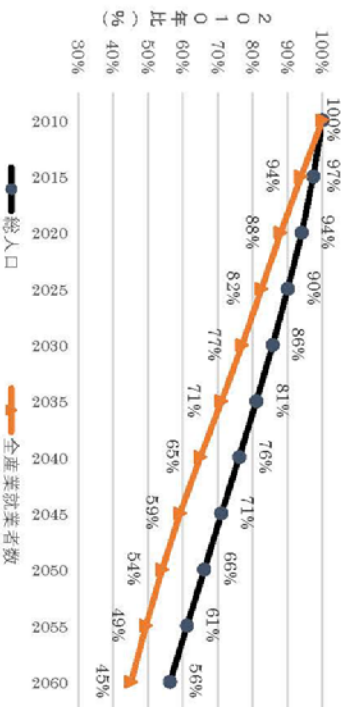


・国 (国立社会保障・人口問題研究所) の推計によると、今後、何も対策を講じない場合には、2040年の人口は419万人となる。

2010年 550万人
↓
2040年 419万人

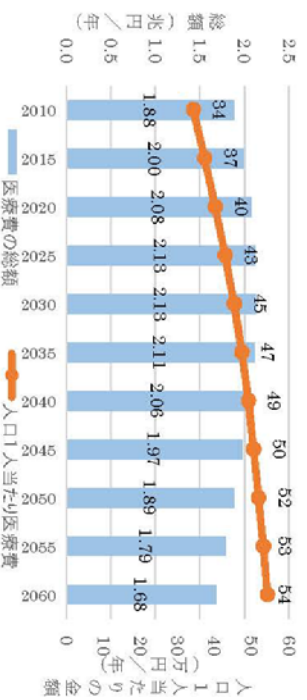
2 人口減少が地域の将来に与える影響の分析・考察

全産業就業者数の将来推計



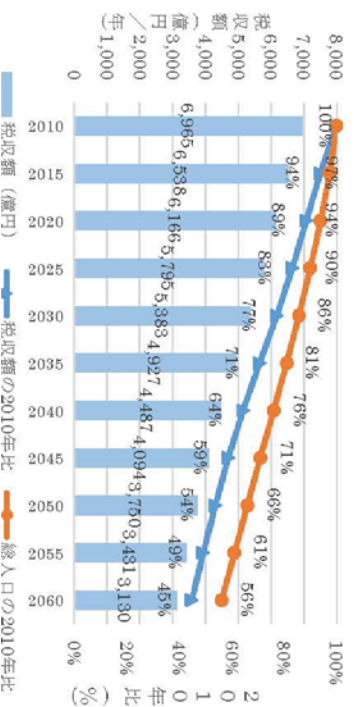
・生産年齢人口の減少と高齢化の進展による非就業者の増加により、将来の就業者数は総人口を上回るスピードで減少する。
・就業者数の減少による人手不足は、地域活力の低下や農林水産物の供給力の低下を招くことが懸念される。

医療費総額及び人口1人当たりの金額の将来推計



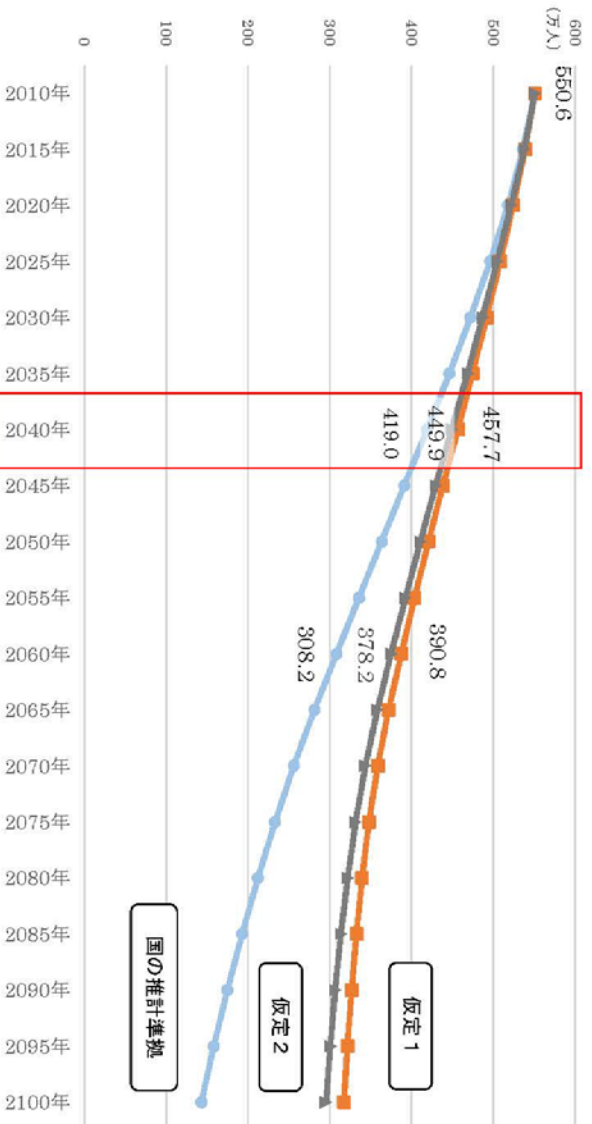
・医療費の総額は、2025～2030年をピークに減少し、地方部における医療施設の撤退や身近な受診、受療機会の減少、通院時間の増加等が懸念される。
・高齢化に伴い、一人当たりの医療費は増加することにより、若年層や現役世代の負担増が懸念される。

税収額の将来推計



・税収額は、生産年齢人口の減少に伴い、人口減少割合を上回るスピードで減少する。
・税収の減少に加え、医療費、介護給付費の増加が見込まれていることから、行財政を取り巻く環境は更に悪化することが懸念される。

・今後、札幌市をはじめ道内各地域において、自然減、社会減の両面からの対策が効果的かつ一体的に行われ、その施策効果により合計特殊出生率が向上し、道外への転出超過が抑制された場合には、2040年時点で、460～450万人の人口が維持される見通し。



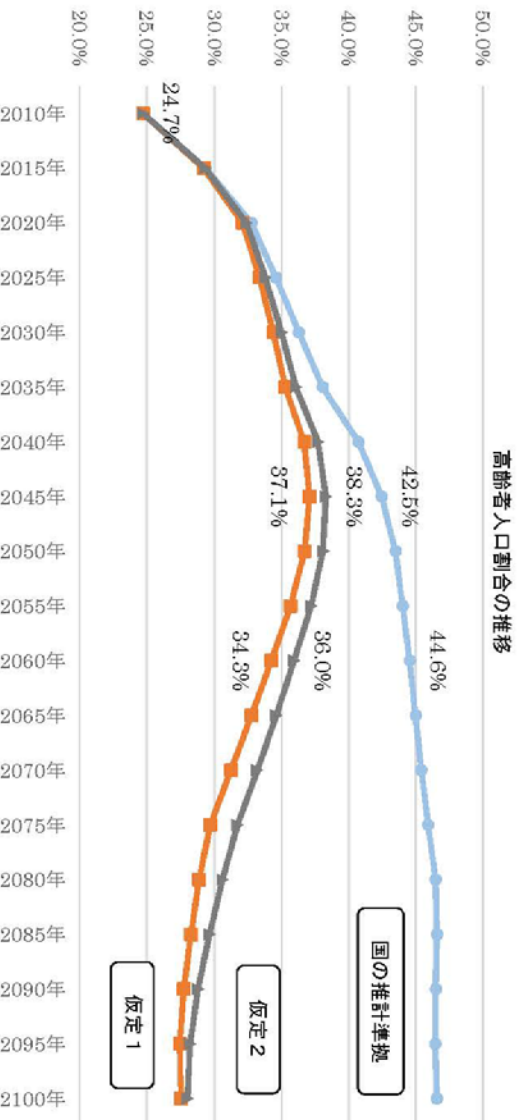
仮定1：2040年の人口約458万人

仮定2：2040年の人口約450万人

- ① 自然動態 (合計特殊出生率)
2030年：1.8、2040年：2.07
- ② 社会動態 (純移動数)
2019年：転出超過数を現在の約半分に
する
2025年：社会増減数を均衡 (=0) させる

- ① 自然動態 (合計特殊出生率)
・札幌市 2030年：1.5、2040年：1.8、
2050年：2.07
・札幌市以外は仮定1と同様
- ② 社会動態 (純移動数)
仮定1と同様

・高齢者の人口割合は、国の推計が2040年を超えても上昇していくのに比べ、人口構造の高齢化抑制の効果が2045年頃に現れ始め、その後、低下する。



高齢者人口割合の推移